

↓
ろいですね。「働くか、働かないか」だけでなく「自分も楽しみながら働いて他者にも喜ばれる生き方」もあるよ、と。日本人はどうしても根が真面目で勤勉なので「アライタイプ」が優秀で、「キリギリスタイル」は後で困る怠け者みたいな価値観が主流だったかもしれません。

しかしキャリアデザインという視点で考えれば、得意なことをやって生きていくほうが「自己実現」はしやすいはず。そして一生同じ働き方である必要もない。キリギリスのように自分の得意を

活かす時期、アリのように生活のためにがむしゃらに働く時期、ミツバチのようにある程度の収入を得ながら他者にも貢献できる働き方をする時期……と人生にはいろいろなタイミングがあるので、そのときに応じた働き方が選択できれば良いのではないかと思います。看護師さんという資格を持って20代、30代、40代、50代……と働くなかで年代によってその働く目的も変わっていくのは自然なことです。「自分らしく働く」とはどんな働き方でしょう。今の自分にとって「働く」の意味はなんでしょうか。



〈著者プロフィール〉 松井貴彦 (まついたかひこ)

特定非営利活動法人いきいきライフ協会理事 一般社団法人看護職キャリア開発協会 ライフキャリアコンサルタント 同志社大学文学部心理学専攻(現 心理学部)卒。株式会社リクルートにて編集マネージャー、週刊ピーピング副編集長。1994年より株式会社メディカ出版にて編集部門、管理部門、

臨床教育ソリューション部門、販売企画部門責任者、株式会社保育社の代表取締役など歴任。現在は人材育成、組織活性化を中心に、より良く生きるキャリア選択のコンサルティングを専門分野とする。著書に「家で死ぬの幸せ」(2021年刊)ほか。

「なな一地域連携室」だより

【みんなでつくる地域コミュニティー なな一カフェ】

豊中市熊野町3-3-47(グループホームいきいき東豊中内)

ボランティアおばちゃんの出張駄菓子屋さん

「水曜日のおばちゃんに来れる時だけ開店・空いたらラッキーと思ってね☆」といった、ゆるい感じの企画ですが、おばちゃんも子どもが大好きなのでほぼ毎週水曜日は開店しています。おばちゃんの温かな人柄からリピーター多数です。

おばちゃんは、昨年末に豊中に引っ越しされて、以前は金沢で駄菓子屋を

していました。
子どもたちだけでなく、
おばちゃん自身の
居場所にもなっています。



「なな一カフェ」では、子どもの居場所事業「いこっと」に登録している関係から、ボランティアの関わりで地域の子どものはじめとした繋がりが生まれています。



多世代交流、学習支援の場にも！

子どもたちやおばちゃん以外にも、「いこっと」を通じて受け入れている高校生のボランティア、地域連携室スタッフ、未就園児連れの親子、グループホームの入所者も訪れるので、多世代の繋がりが生まれています。宿題をもってくる子もちらほら。学習支援の場にもなっているの、学習支援ボランティアを募集中です。



その他、「和紅茶の会」や、「街の保健室」等、様々な場をつくっています。ぜひお気軽にお立ち寄りください。詳しくは、右の二次元コードからご確認いただけます。 地域連携室スタッフ 鈴木菜穂

Check !



なな一通信